

二松学舎新聞

発行 二松学舎
学校法人
東京都千代田区三番町6-16
03(3261)7407
https://www.nishogakusha-u.ac.jp



2022年 新年のご挨拶

本学は、明治十(一八七七)年十月、九段の地に漢学塾二松学舎として創立され、本年、百四十五周年を迎えます。本学の長期ビジョン「N2030 Plan」では建学の精神に基づいて育成する人材像を、時代の先行き、AIに代表されるニューテクノロジーやSDGs等による経済・社会構造の大変革や価値観の多様性を展望し、「日本に根差した道徳心を基に、良質の知識と英語・中国語等語学力



創立百四十五周年を迎えた二松学舎「N2030 Plan」の推進

学校法人二松学舎理事長 水戸 英則

と、その人材育成実現のため、「二〇三〇年教育体制」の構築という目標の下、各設置校での改革を進めてまいります。大学では、二〇一七年

の学校としても、規模としては小さなものではないが、安全性の検証と教育環境の最適化を目指し、できる限り細やかな対応を心掛けてきております。その一方で、人口減に伴う学校存続の危機

です。並行して二〇年度一年次生から学生一人一台PC体制を開始。ICT教育環境の拡充として九段キャンパスのWi-Fi環境を高速度・大容量化し

ました。デジタルの活用に対する教育現場の意識の高まりを契機に、二二年度は、デジタルを大胆に取り入れ、「学修者本位の教育の実現」「学びの質の向上」「就職先の保証」に資するための質の高い成績管理や教育手法の開発を進め、大学におけるDX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進。施設面では四月から「九段5号館」にアキバラボの設備を移設。都市文化デザイン学科に限らず、多目的な施設としての活用を始めます。さらにWithコロナ時代の学生支援、就職支援の拡充・強化を図り、産業界、地域社会等との連携強化も図ります。

最後に法人部門では、運営のさらなる透明性・公明性強化のため、昨年策定・公表したガバナンス・コードのさらなる充実、情報公開の拡充等ガバナンス改革を進め、人

皆さま、あけましておめでとうございます。この二年間は、新型コロナウイルス感染症拡大によって、従来とは異なったさまざまな対応を、教育研究活動を維持するために重ねてまいりました。また、教職員、学生、卒業生そしてご父母の皆さまの協力としてご支援の下、二松学舎

学はより個性的な学び舎であり続けながら、さらに総合的かつ国際的な高等教育機関であることを目指したいと思っております。またそのことで、ここで学ぶ学生たちにとっても

から大きく活躍する学生たちにあふわしい学び舎であるのです。

し、中国浙江外国语学院からの授業を受講している学生がいます。また、文学部歴史文化学科では、地理歴史の教員免許が取得できますので、言語のOB教員に続き、地理のOB教員も活躍することと思っております。さらに、国際政治経済学部を中心に、企業との連携による教育研究活動が活発に行われています。本年は寅年ということもあり、この新しい専攻・学科や取り組みが、虎に翼を得たと目されて、学びの多様化と共に卒業生の進路活躍の幅がさらに大きくなることを信じています。

加えて、創立百四十五周年記念事業・記念広報の実施により、本学の社会的プレゼンスを高めてまいります。このため、「創立百四十五周年記念募金(二松学舎教育研究振興資金)」の募集もご案内させていただきますが、ご協力いただければ幸いです。予想される内外環境の激変などさまざまな事象に対応できる知恵を古典から生み出し、将来の発展につなげていくなど、建学の精神に基づいた人材の育成が、私どもに与えられた使命であると確信しており、この方針の下、次の百五十周年に向け進んでまいります。皆さまに引き続きご支援、ご協力をお願いし、新年のご挨拶といたします。



学びの多様化と、卒業生の活躍の幅をさらに大きく

二松学舎大学学長 江藤 茂博

大学はその歩みを一歩も怠ることなく、常に教育研究の向上に努力することができました。この間、大学では学生たちへの教育活動をどのように維持すべきなのか、さまざま

は、漢学塾から国漢の旧制専門学校そして新制大文学部へと流れる伝統が、本学の教育研究において、他に類を見ない個性的な学び舎を形成してきました。今後とも、本

中学校でも、アクティブラーニング中心の授業展開を通じて難関大学への進学実績をさらに引き上げるための生徒募集力の強化を図る方針です。またコロナ禍における生徒・保護者満足度の向上、奨学金制度の見直しも実施。さらに「Society 5.0」の時代に求められる人材育成のため、タブレットPCの全生徒一人一台体制が完了しており、これを活用した学習指導・進路指導の充実が年々図られています。

事制度・組織の在り方についても整合性ある形を追求していく他、重要な使命である財務の安定的な管理・運営に配慮し、将来の教育環境整備や奨学金基金の一部として活用するための恒常的な寄付金募集体制の強化を図りつつ、補助金については、改革総合支援事業の制度の仕組みの共有を通じて、できるだけ獲得を図っていくこと、資金運用については、規程に基づきリスク管理を徹底し慎重な運用を行っていく他、外部第三者評価による法人財務格付けの実施などにより改善を図ると共に、長期ビジョンの最終目的である本学のブランド力の向上および各設置校の志願者・入学者の増加・安定に結び付けていきたいと考えております。

二〇二二年四月、二松学舎大学文学部に新設される「歴史文化学科」の教職課程について、二二年十一月十五日付で、文部科学省の認定(適用時期 二二年四月一日)を受けた。

歴史文化学科の教職課程認定 中学校(社会)・高等学校(地理歴史)

これにより、「歴史文化学科」入学生は所定の単位を修得することで、卒業時に中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(地理





『スクールミッション』と『三つのポリシー』

二松学舎大学附属高等学校長

本城 学

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

今年四月から、大学同様にて全ての高等学校が自らの教育活動をミッションと三つのポリシーにまとめ、発信することが法的に義務付けられました。本校の現状のご紹介として、以下、そのミッションと三つのポリシーの要点を簡潔に述べさせていただきます(詳細は「アドミッション・ポリシー(求める受験生像)」「グラデュエーション・ポリシー(卒業時の生徒像)」「カリキュラム・ポリシー(教育内容)」)

本校ホームページをご覧ください(「教育内容」)。「論語」を通じた人格教育と、基礎基本の上に国際化や情報化等に対応できる学力育成とのバランスある教育

「三兎」全てに大きな影響を及ぼしてきました。しかし本校は、地味で根気が必要とする徹底した感染防止行動を皆で実行し、さらにその土台の上に授業やクラブ活動、行事に工夫を凝らして実施することで、幸い大きなダメージを受けることなく高校生活を継続してまいりました。生徒、先生方そして保護者の皆さまとごつくり出す「二松の

底力」に心から感謝しています。昨年も、コロナ禍の制約を乗り越えて野球部やダンス部が全国大会で好成績を収めてくれました。また三年生は、年内に進路決定した生徒たちに加え、大学一般入試もこれから本格化します。進路面での生徒たちの夢の実現を大いに期待しています。

本年も、建学の精神や伝統の校風を大切にしながら、「心を育て、学力を伸ばす教育」を生徒・教職員一丸となって頑張つてまいります。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



『さわやかで活気ある進学校』

二松学舎大学附属柏中学校・高等学校長

七五三 和男

謹んで新春のお慶びを申し上げます。新年を迎え、皆さま方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

コロナウイルスとともに歩んだこの二年、度重なる感染拡大防止のため、休校措置・時間短縮授業並びに年間スケジュールで予定していた多くの学校行事が中止、変更となりました。論語に「子曰く、歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るる

ことを知る」とあります。厳しい寒さの季節がやってきて、他の木はみな枯れたりしぼんだりしてしまっているなかで、松や柏だけが散ることなく緑の葉をつけたまま立っている。平素は分からないが、何か事が起こったときにその人の本当の価値というものが分かるというものです。まさにこの二年に例えることができ

ます。本校は、いち早くオンラインを有効に活用した授業等の対応【コロナ禍でも学びを止めない確かな教育】を大切に、全教職員が一丸となって取り組んでまいりました。また生徒へ元気を届けた

いた。昨年四月、基本姿勢である建学の精神と校訓教育目標の発揚・論語による人格教育のもと、次の重点指導項目を定め

ました。本校教育二本の柱、人間力の向上・学力の向上への取り組み強化、さわやかな進学校から活気ある進学校へ、学校行事・課外活動の活性化、中学校定員充足、高等学校計画的定員管理、そして進

学実績向上というものです。また、日々心掛けとして(挨拶・清潔・身だしなみ)(感謝・気配り・謙虚)(知識・創意・挑戦)を掲げ取り組んでおります。今後本校は、生徒一人一人が夢や希望を見つけて、それに向かってまっすぐに進んでいける確かな学力と強い心、そして自分の考えを正確に人に伝えられる表現力と、相手の気持ちを理解できる思いやりあふれた温かな人間性を身に付けることを教育の特色として取り組んでまいります。

関係の皆さまのご理解とご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

行事予定では一学期に実施予定だった球技大会だが、コロナ感染が落ち着いたこの時期まで待ち、学年ごとに時間差を

附属高校卒業生 鈴木誠也選手が「紫綬褒章」受章



写真提供 広島東洋カープ
奥から左へ、鈴木誠也選手、高橋理央選手、三浦大輔選手

二〇二一年十一月三日(令和三年秋の褒章で、附属高等学校卒業生・広島東洋カープの鈴木誠也選手が「紫綬褒章」を受章した。

これは、東京オリンピック・パラリンピックの金メダリスト七十七人に贈られたもの。鈴木選手は、野球日本代表としてロサンゼルス大会以来、三十七年ぶりとなる金メダルを獲得した。

鈴木選手は「自分の生まれ育った日本の東京で開催されたオリンピックという舞台で、多くの人を支えられ最高の仲間と恵まれたことで、紫綬褒章を語っている。

一年生から三年生まで、金学年の生徒が初めて参加。特に三年生にとっては最初で最後の大会となった球技大会。その日のTシャツを着て、力を合わせて一生懸命にプレーし、クラスメイトを一生懸命に応援した生徒たち。どの学年も大変に盛り上がり楽しい時間を過ごし、クラスの団結力も一層深まった。

生徒会、体育委員会をはじめ、競技の準備や運営に当たった各クラブの生徒ら、多くの生徒の協力により、球技大会は無事成功に終わった。大会に参加した佐藤愛理さんと高橋理央さん(三年F組)は「普段見られないクラスメイトの意外な一面が見られ、特にドッジボールは手に汗握る緊張感があり、思い出に残りました」「全員が楽しめるよう計画してくれた生徒会や審判を務めてくれた委員や部員の皆さんに感謝しています」と感想を語った。

全校生徒参加の球技大会

三年ぶりに開催

二〇二一年十一月二十四日、「キックコマンアリーナ(流山市民総合体育館)」「千葉県流山市」で附属高等学校の球技大会が実施された。

一昨年は東京オリンピックの開催で、球技大会が実施されなかった。大会の種目はクラス選抜六人制のバスケットボールと試合ごとに交代

し、原則全ての生徒が必ず一回は参加するドッジボール。両競技とも、前半と後半のチームに分け、二チームの合計点で勝敗を競った。

「原典全ての生徒が必ず一回は参加するドッジボール。両競技とも、前半と後半のチームに分け、二チームの合計点で勝敗を競った。」



クラス選抜のバスケットボール



全員参加したドッジボール

附属柏中学校

がん教育の特別授業開催 予防・がん検診の大切さ学ぶ

二〇二二年十一月十三日、附属柏中学校の二年 生を対象に、日本対がん協会によるがん教育の特別授業が行われた。



漱石アンドロイドと奥仲医師の対談



奥仲医師の講演

の奥仲哲弥医師(山王病院副院長・呼吸器外科)と二松学舎大学特別教授・夏目漱石(漱石アンドロイド)の対談が行われた。がんが「不治の病」だった漱石の時代と、コントロール可能な病気となり、がんと共存する時代となった現代の状況を比較しながら、がん予防・がん検診の大切さについて語り合った。
対談後には「十代から知っ得がんの知識」をテーマに奥仲医師による授業が行われた。がんの発見時期と生存率の関係や早期発見の重要性、薬や医療技術の進化などについて、具体的な数字をあげたり、参考資料として、実際の手術の映像を映すなどして、分かりやすく解説され、参加した約九十人の生徒たちは熱心に耳を傾けていた。
「知らないと怖いけれど、正しい知識を身につければ、がんは決して怖いものではないし、家族を支えることもできる」という言葉が印象的だったこの特別授業。生徒たちからは、「がんは日頃の生活習慣と大きく関係していることが分かりました。早くに気付いて治療すれば治る病気というのを聞いて検診の大切さも知りました」などの意見が聞かれた。

附属柏高校

韓国語スピーチコンテスト 関谷光莉さんが金賞

二〇二二年十一月二十日、千葉市文化センターで行われた千葉韓国教育院主催「第三十七回千葉県韓国語イヤギ大会(スピーチ大会)」に、附属柏高等学校・韓国語授業選択の関谷光莉さん(三年生)が出場し、金賞を受賞した。



左から担当の古子智美先生、関谷さん、全先生



表彰式

関谷さんのスピーチのテーマは「世界中で花咲く韓国映像文化」。大会まで、韓国語の全箇所から始め、先生の模範録音や授業後の時間を活用して発音練習を行った。また、直前には授業内で実際に発表を行って準備を進めてきた。
本番では、重ねてきた練習の成果を遺憾なく発揮し、最近では日本のみならず世界でも話題になった。

また、関谷さんを指導した全先生は、「参加した発表者の中で、一番大きい声で、とても立派な発表でした。おめでとうございます」とおめでとうございますと称えた。

大学 産学連携の取り組み進む 課題解決へプレゼンテーション

二松学舎大学と企業とのさまざまな産学連携が進んでいる。

国際政治経済学部国際経営学科では、パネルディスカッションを活用したリサーチや解析ツールを提供するグループ企業、株式会社クロス・マーケティンググループや、インターネ

食品グループ本社とマクロミルによる審査で一位から三位のグループが選ばれ、表彰も行われた。ハウス食品グループ本社から、どの提案も素晴らしいと順位付けが難しかったとの総評があった。今年度は、文学部でも産学連携のプロジェクトが行われている。

二松学舎大学と企業との産学連携は、現地視察も行い、その後、視察を踏まえた施設の感想や良い点、課題点などのディスカッションも行われた。二年二月には、最終のプレゼンテーションが行われる。また、二〇二二年十一月二十日から二十八日まで、同じく柏キャンパスのある柏市のセブンパークアリオ柏と大学との産学連携で、「渋沢栄一と二松学舎」展を開催。



小具ゼミナール



松本ゼミナール



アリオ柏の会場

当日は、プレゼンテーションに参加したハウス
この講座。本学では参加する学生たちが、他大

また、関谷さんを指導した全先生は、「参加した発表者の中で、一番大きい声で、とても立派な発表でした。おめでとうございます」とおめでとうございますと称えた。

二松学舎大学と企業との産学連携は、現地視察も行い、その後、視察を踏まえた施設の感想や良い点、課題点などのディスカッションも行われた。二年二月には、最終のプレゼンテーションが行われる。また、二〇二二年十一月二十日から二十八日まで、同じく柏キャンパスのある柏市のセブンパークアリオ柏と大学との産学連携で、「渋沢栄一と二松学舎」展を開催。

二松学舎大学の発展に尽力した渋沢栄一。その関連のパネルや、本学が所蔵する書簡等の貴重資料を紹介。併せて附属柏中学校・高等学校の入試個別相談会も実施した。

教育研究振興資金

学校法人二松学舎は、大学、附属高等学校、附属柏中学校・高等学校の諸施設設備の充実を図るため、二〇〇七(平成十九)年十二月から「二松学舎教育研究振興資金」の募金活動を行っています。

今回は、通常のご寄付につきまして、二〇二二年四月一日以降、二〇二二年十月三十一日までにご入金いただき事務処理などが完了した方と、「附属高校野球部甲子園出場支援」としてご寄付いただき、二〇二二年九月一日以降、二〇二二年十月三十一日までにご入金の事務処理などが完了した方のご芳名を掲載いたします。今回掲載できなかった方につきましては次号(八十七号)以降に掲載いたしますのでご了承ください。ご芳名は、申込書や振込用紙、インターネットなどの申し込みフォームに記入されたご依頼人氏名の表記(敬称略)とさせていただきます。(掲載を辞退された方々のご芳名は除かせていただいております)

寄付者芳名

募金状況は、二〇二二年十月三十一日現在総額七億一千九百六十四万五千五百円となりました。ご協力にこそより感謝し、厚く御礼申し上げます。

こちらには寄付者芳名を掲載しています。
詳しくは本紙をご確認ください。

こちらには寄付者芳名を掲載しています。
詳しくは本紙をご確認ください。

第103回全国高等学校野球選手権大会
支援募金収支報告書

<収入の部>

区分	項目	金額
諸収入	前回甲子園繰越金	0円
	寄付金	25,114,111円
	広告協賛金	0円
	主催者(朝日新聞社)補助金	2,010,580円
	応援バス等申込金等	5,260,000円
収入合計		32,384,691円

<支出の部>

区分	項目	金額
選手派遣 関係費	支度費・用具費等	10,760,500円
	選手滞在費等	7,966,970円
	現地交通費・練習場借用費	5,097,045円
	その他諸経費	941,188円
	小計	24,765,703円
応援関係費	生徒応援バス代等経費	24,459,526円
	応援諸経費	1,032,180円
	入場券代	321,000円
	小計	25,812,706円
広報・事務 関係費	募金関係費	1,920,341円
	広報広告費	0円
	記念品費	993,500円
	記念誌制作費	2,750,000円
	雑費	0円
小計	5,663,841円	
支出合計		56,242,250円

『二松学舎教育研究振興資金』寄付のお願い

学校法人二松学舎では、学生・生徒の教育環境向上のため、恒常的に「二松学舎教育研究振興資金」の寄付金募集を行っております。

この募金は、寄付金の用途を指定することができ、さらに、税制上の優遇措置が受けられます。

左記にご連絡いただければ専用払込用紙をお送りいたします。お申し込み方法の詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。

ホームページからのお申し込みも可能です。何とぞ、募金活動の趣旨をご理解いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ】 企画・財務課 (電話)〇三(三三六)一三九八

シンポジウム・講演会 ハイブリッド方式で開催

昨年度は新型コロナウイルス感染症対策として中止となった対面型のシンポジウム、講演会。今年度は、感染対策を徹底し、事前予約制などで入場者を絞り、併せてウェブ配信を行うハイブリッド方式での開催を実現した。

シンポジウム

「『論語と算盤』の真実 日本近代史の中の渋沢栄一」

二〇二二年十一月二十七日、九段一号館二階二〇一教室で、「『論語と算盤』の真実 日本近代史の中の渋沢栄一」をテーマに、二松学舎創立百四十五周年記念事業 国際政治経済学部・文学部・東アジア学術総合研究所合同シンポジウムが、JSPS 科研基盤(S)

「尊敬概念のグローバルスタンダードに向けた理論的・概念的・比較文化論的研究」の共催で開催された。

来場者(百人限定)と同時オンライン配信の視聴者を対象に実施されたこのシンポジウム。瀧田浩文学部長による開会あいさつで始まった第一部「近代日本の国際関係」では、小和田恆(二松学舎大学名誉博士)による特別講演「近代日本の万国公法(The Law of Nations)との出会い」、二松学舎大学国際政治経済学部長・佐藤晋教授による報告「渋沢栄一と国際秩序観」が行われた。

また、第二部「『論語と算盤』の真実 日本近代史の中の渋沢栄一」では、東京大学大学院の小島毅教授による基調講演「栄一、論語を説く」に続き、本学教員五人による以下の報告、東アジア学術総合研究所長・牧角悦子文学部教授の「『論語と算盤』の漢学的意味」、林英一同学部専任講師の「渋沢栄一の自己語り―『雨夜譚』を中心に―」、今井悠人国際政治経済学部専任講師の「渋沢栄一と近代金融制度」、菊地宏樹同学部専任講師の「渋沢栄一と鉄道事業」、日本漢学研究所

『論語』の学校

RONGGO ACADEMIA-

昨年度はコロナ禍により全面中止となった『論語』の学校-RONGGO ACADEMIA-は、二〇二一年十二月二日、九段一号館二〇一教室で、本学在学に向けて『論語』の学校』特別講演として実施された。

水戸英則理事長のあいさつで始まり、かながわ信用金庫理事長・平松廣司氏による特別講演『論語と算盤』と信用金庫経営』、二松学舎大学国際政治経済学部・岩田幸訓

センター長・町泉寿郎文学部教授の「渋沢栄一と斯文会から近代漢学を考える(動画)」が行われた。最後に、大学院文学研究科長・山口直孝教授を司会に、第二部の講演者、報告者(町教授を除く)による総合討論会が実施され、活発な意見交換が行われた。

百四十五周年記念 HPリニューアル

創立百四十五周年記念事業として制作されたものだが、最近の一般的な傾向として、スマートフォンを利用したコンテンツの充実が必要不可欠と考えられることから、トップページのデザインを、現在のホームページは、創立百四十周年記念事業および学生募集戦略の一環として、二松学舎大学公式ホームページのトップデザインがリニューアルされる。

現在のホームページは、創立百四十周年記念事業として制作されたものだが、最近の一般的な傾向として、スマートフォンを利用したコンテンツの充実が必要不可欠と考えられることから、トップページのデザインを、スマートフォンで見やすいページに刷新。ページの最上部には動画をまた、受験生サイトや大学の様子が分かるコンテンツを上部に配置し、学部や学科紹介、動画視聴等へのページに遷移しやすいデザインとなる。新トップページ(イメージ)

「『論語と算盤』の真実 日本近代史の中の渋沢栄一」をテーマに、二松学舎創立百四十五周年記念事業 国際政治経済学部・文学部・東アジア学術総合研究所合同シンポジウムが、JSPS 科研基盤(S)「尊敬概念のグローバルスタンダードに向けた理論的・概念的・比較文化論的研究」の共催で開催された。

昨年度はコロナ禍により全面中止となった『論語』の学校-RONGGO ACADEMIA-は、二〇二一年十二月二日、九段一号館二〇一教室で、本学在学に向けて『論語』の学校』特別講演として実施された。

世界とつながる国語力を。

私たちの二松学舎。

学校法人 二松学舎

二松学舎で学びたい方 | 在学生の方 | 卒業生の方 | 父母会の方 | 一般・企業の方

受験・進学をお考えの方

受験生サイト | 入試情報

Special Contents

OPEN CAMPUS
二松学舎大学を体験しよう!
オープンキャンパス

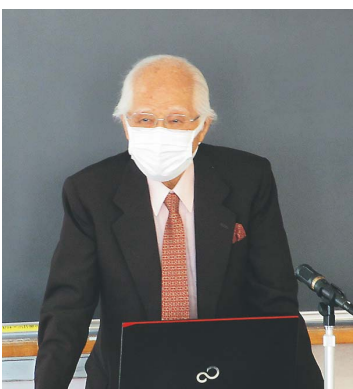
N°2030 Plan
二松学舎の140周年を振り返る

サステナブルな社会へ
二松学舎の取り組み

ゼミナール
探訪



小島毅 東京大学教授



小和田恆 名誉博士



討論会 左から林専任講師、牧角教授、小島教授、今井専任講師、菊地専任講師



岩田幸訓 教授

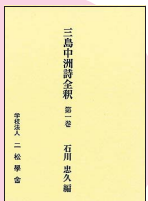


平松廣司 氏

私の一冊 46

『三島中洲詩全釈』全五巻

附属図書館事務部長 高柳 幸雄



石川忠久編
(学校法人 二松学舎)

ここに『三島中洲詩全釈』石川忠久編(全五巻)をご紹介します。この編著には、二松学舎の創立者三島中洲先生が、二十歳「嘉永五(一八五二)年」から九十歳「大正八(一九一九)年」までに詠まれた漢詩二千八百四十首が収められています。幕末、維新の激動を乗り切った漢詩の大家、明治(一八七二)年四十八歳の時、二松学舎を設立し、再び教育に力を注ぎ始め、その頃のも容易に読み進むことができます。

詠まれている内容は日常のこと、知人、友人を旅先での出来事、大正天皇とのこと、古典の書評、梅に桜に蓮に菊と、中洲先生の心情を感じることが出来ます。心揺さぶられるものが、きっとあります。

年「から九十歳「大正八(一九一九)年」までに詠まれた漢詩二千八百四十首が収められています。幕末、維新の激動を乗り切った漢詩の大家、明治(一八七二)年四十八歳の時、二松学舎を設立し、再び教育に力を注ぎ始め、その頃のも容易に読み進むことができます。

増えてきます。常に周りに人を感じ、人望が厚く、最晩年の漢詩に、親交の深かった渋沢栄一の傘寿を祝う「己未春、賀澁澤男八十」が見られます。この編著は、漢詩それぞれに書き下し文、語意、訳を付し、年代順になっ